

政策分野別の考察について

27の政策分野ごとに、過去4年分の生活実感と今年度の政策重要度等から読み取れる事実や課題をまとめた。

<表の見方>

生活実感			政策重要度		
①肯定的回答	②順位	③過去3年との比較	④肯定的回答	⑤順位	⑥昨年との比較
〇〇%	△/27	+□%	〇〇%	△/27	+□%
⑦【考察】					

- ① 当該分野における生活実感の設問の肯定的回答（「そう思う」と「どちらかという
とそう思う」を足し合わせたもの）の平均値（H26）
- ② ①について27の政策分野における順位（H26）
- ③ ①と過去3年分（H23・24・H25）の平均値との比較
- ④ 当該分野における政策重要度の肯定的回答（「重要である」と「どちらかという
と重要である」）の値（H26）
- ⑤ ④について27の政策分野における順位（H26）
- ⑥ ④とH25の値との比較
- ⑦ 市全体と世代別・性別の観点から、当該分野の特徴的な傾向を示したのものや、そ
こから読み取れる課題等を記述

なお、考察の中で取り上げた特徴的な設問は<資料7>にグラフを掲載しているので、
そちらをご確認いただきたい。

1 環境

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
50.1%	8/27	+0.7%	89.0%	3/27	+0.3%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問4「太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。」は、市全体では過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加している。 ・回答者の周囲の取組に対する評価を示す設問5「京都では環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。」は肯定的回答の割合が低い。 ・設問7「ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。」は高年層男性において過去3年平均と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 					

2 人権・男女共同参画

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
23.8%	25/27	+1.4%	82.8%	9/27	+1.2%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問3「女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。」は、若年層の否定的回答（「どちらかというとも思わない」及び「そう思わない」）の割合が他の世代よりも高かった。特に若年層女性はその傾向が顕著であった。 ・設問4「女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。」は、前年度と同様にすべての世代で男性の方が肯定的回答の割合が高く、男女間で差がみられた。 					

3 青少年の成長と参加

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
13.9%	27/27	+1.6%	81.4%	12/27	-0.8%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・全設問を通じて、生活実感は上昇傾向にあるものの、分野ごとの順位は最下位で変わらなかった。しかしながら市全体では設問2「青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。」と設問5「青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。」では過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加している。 ・すべての設問で「どちらとも言えない」と「無回答」の割合が高い。 					

4 市民生活とコミュニティ

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
38.4%	14/27	+1.7%	79.1%	15/27	-2.2%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> 生活実感について、中年層男性の回答は他の世代別・性別と比べて肯定的回答の割合が総じて低かった。 設問1「地域の一員として安心してらせるまちになっている。」と設問2「町内会・自治会などの地域の組織の活動が盛んである。」は、肯定的回答の割合が比較的高い傾向にある。特に設問1は市全体で過去3年と比較して大きく増加している。 設問3「地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。」は中年層男性と高年層女性の肯定的回答の割合が著しく低いが、とりわけ高年層女性では過去3年と比較して大きく減少した。 					

5 市民生活の安全

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
30.3%	21/27	+0.5%	88.6%	4/27	+0.5%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> 設問1「犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。」と設問3「悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。」では、若年層男性の肯定的回答の割合が特に低かった。 設問3と設問4「消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。」は「どちらとも言えない」の回答の割合が特に高い。 					

6 文化

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
57.1%	5/27	+2.5%	77.6%	18/27	+0.5%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> 設問1「京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。」と設問4「文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。」は、概ね肯定的回答の割合が高い傾向にある。特に設問1は中年層女性で過去3年と比較して大きく増加した。 生活実感の肯定的回答の割合が高いなかで、設問2「市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。」は比較的低かった。 					

7 スポーツ

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
30.5%	20/27	+1.1%	64.3%	26/27	+0.4%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問2「プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。」は肯定的回答の割合が総じて低かった。とりわけ高年層女性は過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく減少した。 ・設問3「スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひが増えている。」は全体的に「どちらとも言えない」と「無回答」の割合が高い。 					

8 産業・商業

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
38.4%	14/27	+1.7%	67.7%	25/27	-2.9%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問4「京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。」は中年層女性において過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 ・設問5「働くことを希望するひがいきいきと働ける場を得る機会がある。」は肯定的回答の割合が低いものの、市全体では過去3年と比較して大きく上昇し、若年層男性も肯定的回答の割合が高かった。しかし中年層男性では否定的な回答が目立った。 					

9 観光

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
61.2%	2/27	+3.2%	78.4%	16/27	+0.7%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活実感は一貫して高い順位に位置している。 ・設問6「子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。」は若年層男性において過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 ・設問7「京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。」は「どちらとも言えない」と「無回答」の割合が高い。 					

10 農林業

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
14.4%	26/27	+0.1%	69.7%	24/27	-0.8%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感は全体的に否定的な回答が多いものの、設問1「京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。」と設問3「市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。」は市全体において過去3年と比較して肯定的回答の割合が増加した。中年層女性も設問3で過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 中年層男性は、設問2「京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。」と設問3に対して否定的な回答を示す傾向が強い。 政策重要度については、若年層・中年層は重要と思っていない人が比較的多い。 					

11 大学

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
55.8%	6/27	+2.3%	70.0%	23/27	+1.8%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感については、多くの設問で若年層の男女ともが肯定的な回答をしている。 設問2「京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。」は若年層女性が肯定的であり、過去3年と比較しても肯定的回答の割合が大きく増加した。 設問4「学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。」は若年層が肯定的であり、市全体でも過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 政策重要度については、若年層女性はまだ重要視していない傾向にある。 					

1 2 国際化

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
54.3%	7/27	+2.1%	77.2%	19/27	+1.5%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感はいずれの設問も肯定的回答の割合が概ね高い中で、設問3「国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。」は、中年層男性の肯定的回答の割合の低さが突出している。 設問1「京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。」は若年層が肯定的な回答を示しており、市全体と若年層男性では、過去3年と比較し、ともに肯定的回答の割合が大きく増加した。 設問2「京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。」は、若年層女性で過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 政策重要度は、若年層と中年層男性が低く、中年層女性と高年層が高い。 					

1 3 子育て支援

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
37.3%	17/27	+0.8%	84.3%	7/27	-1.1%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感は、全体として肯定的回答の割合がやや低い。 設問1「子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。」、設問3「必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを育てることができる。」、設問5「子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。」は、すべて中年層男性の肯定的回答の割合が低い。 設問4「働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。」は、いずれの世代でも肯定的回答の割合が低い。 					

1 4 障害者福祉

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
26.6%	23/27	-0.7%	84.9%	6/27	-0.2%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感は、全体的に肯定的回答の割合が低い。 設問1「障害への理解が進み、障害のあるひともないひとも、認め合い、支え合ってくらせるまちになっている。」と、設問2「障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。」は、市全体で肯定的回答の割合が低い、とりわけ中年層男性で低い。 設問3「働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。」は、市全体としては肯定的回答の割合が低い、若年層女性のみ高い。 政策重要度については、若年層男女と中年層男女が上昇し、高年層男女は下降した。 					

1 5 地域福祉

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
30.2%	22/27	+1.4%	72.9%	22/27	+0.3%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感はどの設問も肯定的回答の割合が低い。 設問2「地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。」は、どの世代でも肯定的回答の割合が低い、特に中年層男性で低い。 設問4「地域のつながりが福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。」は、若年層男性の肯定的回答の割合が特に低い。 政策重要度は若年層男性が特に低い。 					

16 高齢者福祉

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
36.3%	18/27	+0.5%	80.0%	14/27	+1.4%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感は、設問5を除いて、肯定的回答の割合がやや低い。 設問1「高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実したくらしを送れている。」は中年層男性の肯定的回答の割合が低い。 設問2「高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。」は、若年層男性が高く、高年層の男女とも低かった。 設問4「介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。」は、すべての世代で男性よりも女性の生活実感の方が高くなっている。 政策重要度については、若年層の男女とも、やや低い。 					

17 保健衛生・医療

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
62.2%	1/27	+5.3%	85.4%	5/27	+0.6%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感は、全体的に肯定的回答の割合が高い。 設問1「正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。」は若年層男性と中年層男性で肯定的回答の割合が低くなっている。 設問2「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」については、年代が上がるほど肯定的回答の割合が高くなっているが、若年層女性も高い。 設問5「感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」は市全体と高年層男性で、過去3年と比較し、ともに肯定的回答の割合が大きく増加した。 政策重要度については、どの世代でも肯定的な回答の傾向が強い。 					

18 学校教育

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
38.4%	14/27	+2.1%	82.6%	10/27	-2.1%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感の順位は総合的には中位にあるが、世代により回答状況に違いがみられる。 設問1「保護者や地域のひとびとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。」と、設問3「学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。」は、中年層女性の肯定的回答の割合が高い。 設問2「安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。」では、若年層男性と中年層男性の肯定的回答の割合が低い。 設問4「子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。」は、中年層男性の肯定的回答の割合が著しく低く、かつ過去3年と比較しても大きく減少した。 設問5「京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。」は、若年層男性の肯定的回答の割合が高い。 政策重要度は、前年度と比べて低下傾向となっている。 					

19 生涯学習

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
41.0%	13/27	+2.5%	76.7%	20/27	-0.3%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設問2「生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。」は高年層女性で、過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 政策重要度はいずれの世代でも男性より女性のほうが肯定的回答の割合が高かった。 					

20 歩くまち

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
46.7%	11/27	+3.2%	75.7%	21/27	+2.4%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・分野全体で生活実感の肯定的回答の割合が増加した。 ・設問1「京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。」と設問6「駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。」は、若年層男性で肯定的回答の割合が高かった。 ・設問2「京都での移動には、公共交通が便利である。」は、若年層女性の肯定的回答の割合が高かった半面、中年層男性の肯定的回答の割合は低かった。 					

21 土地利用と都市機能配置

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
47.5%	10/27	+0.9%	63.3%	27/27	+0.8%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問2「田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。」と、設問4「身近な地域が魅力的になっている。」で、若年層男性の肯定的回答の割合が特に高かったことは特徴的である。 ・中年層男性は、設問1「買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。」で肯定的回答の割合が特に低かった。 					

22 景観

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
60.4%	4/27	+0.4%	81.1%	13/27	+0.5%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・若年層女性は設問1「京都の個性的な町並み景観が守られている。」と設問3「京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。」で、肯定的回答の割合が特に高かった。 ・政策重要度は、若年層男性で最も高い政策分野であったことなど若い世代ほど肯定的にとらえている。 					

2 3 建築物

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
34.1%	19/27	+1.2%	82.3%	11/27	+1.7%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層女性は設問1「建物を新築するときは、建築ルールが守られている。」、設問2「バリアフリー化された建物が増えている。」、設問3「地震や火災に強い建物が増えている。」のすべてで肯定的回答の割合が高かった。 ・設問4「身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなりやすいよう改善されている。」は4年連続して肯定的回答の割合が10%程度にとどまっている。 					

2 4 住宅

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
24.4%	24/27	+2.1%	77.7%	17/27	+2.2%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問1「長く大切に使える住宅が増えている。」は、若年層女性で過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく増加した。 ・設問2「地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひとも、新しく転入してきたひとも、分け隔てなく参加している。」は中年層男性で肯定的回答の割合が特に低かった。 					

2 5 道と緑

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
44.8%	12/27	+1.9%	83.1%	8/27	-0.5%
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問2「京都は緑が豊かである。」は、肯定的回答の割合が総じて高いが、若い世代ほど低かった。 ・設問3「市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。」は、中年層男性で肯定的回答の割合が特に低かった。 					

26 消防・防災

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
49.0%	9/27	+0.8%	90.5%	1/27	-0.4%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・設問3「消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。」と、設問5「防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。」は、若年層女性で肯定的回答の割合が低かった。 ・政策重要度は昨年度より若干低下したものの、引き続き第1位だった。 					

27 暮らしの水

生活実感			政策重要度		
肯定的回答	順位	過去3年との比較	肯定的回答	順位	昨年との比較
60.7%	3/27	-1.3%	89.9%	2/27	-0.2%
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活実感において過去3年平均との比較で顕著な変化があったのは、設問2「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」の市全体と6区分すべてと、設問6「水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。」の若年層女性及び中年層男性であり、いずれも過去3年と比較して肯定的回答の割合が大きく減少した。<u>このうち、設問2については、平成25年9月の台風18号によって嵐山での床上浸水、地下鉄東西線の運休など京都市内各地で深刻な水害が発生したためにこのような回答結果になったと考えられる。</u> ・設問4「水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。」は若年層の男女とも肯定的回答の割合が低かった。 ・設問5「京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。」は若年層女性と中年層男性の肯定的回答の割合が低かった。 					